

答案用紙

- 基礎編
- 応用編

答案用紙はダウンロードサービスもご利用いただけます。
ネットスクールHPにアクセスしてください。
<http://www.net-school.co.jp/>

基礎編 答案用紙

問題 1 材料費の分類

(1) 直接材料費	円
(2) 間接材料費	円

問題 2 材料費の処理

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				

問題 3 材料費の計算

	当月材料消費高	月末材料有高
(1) 先入先出法	円	円
(2) 平均法	円	円

問題 4 棚卸減耗費の計算

借方科目	金額	貸方科目	金額

問題5 予定単価による材料費の処理

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

材 料	仕 掛 品
製 造 間 接 費	材 料 消 費 価 格 差 異

問題6 材料副費の予定配賦

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				

問題7 労務費の分類と計算

(1) 直接労務費	円
(2) 間接労務費	円

問題8 予定賃率による賃金の処理

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

問題9 経費の分類と計算

(1) 直接経費	円
(2) 間接経費	円

問題 10 経費の処理

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

問題 11 個別原価計算①

指図書別原価計算表

(単位：円)

費目	No.1001	No.1002	No.1003	合計
月初仕掛品原価				
直接材料費				
直接労務費				
製造間接費				
合計				
備考				

仕掛品

(単位：円)

月初仕掛品 ()	当月完成 ()
直接材料費 ()	月末仕掛品 ()
直接労務費 ()	
製造間接費 ()	
()	()

問題 12 個別原価計算②

仕 掛 品		(単位：円)
月初仕掛品 ()	当月完成 ()	
直接材料費 ()	月末仕掛品 ()	
直接労務費 ()		
製造間接費 ()		
()	()	

製 品		(単位：円)
当月完成 ()	売上原価 ()	
	月末製品 ()	
()	()	

問題 13 個別原価計算③

指図書別原価計算表 (単位：円)

費 目	No.501	No.502	No.503	合 計
直接材料費				
直接労務費				
製造間接費				
合 計				

月末仕掛品原価 _____ 円

月末製品原価 _____ 円

問題 14 製造間接費の予定配賦①

製造間接費配賦額	No.201	円	
	No.202	円	
	No.203	円	
製造間接費配賦差異		円 (差異)	

問題 15 製造間接費の予定配賦②

仕 掛 品		(単位：円)
直接材料費 ()	当月完成 ()	
直接労務費 ()	月末仕掛品 ()	
製造間接費 ()		
()		()
製 品		(単位：円)
当月完成 ()	売上原価 ()	
()	月末製品 ()	()

問題 16 製造間接費の部門別計算①

製造間接費部門別配賦表

(単位：円)

摘 要	配賦基準	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
			甲製造部門	乙製造部門	A 補助部門	B 補助部門	C 補助部門
部門個別費		107,700	51,800	30,800	7,000	9,800	8,300
部門共通費							
厚生費	従業員数	26,000					
建物減価償却費	占有面積	25,000					
部門費		158,700					
A 補助部門費	動力消費量						
B 補助部門費	修繕時間						
C 補助部門費	従業員数						
製造部門費							

問題 17 製造間接費の部門別計算②

製造間接費部門別配賦表

(単位：円)

摘 要	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門	
		甲製造部門	乙製造部門	A 補助部門	B 補助部門
部 門 個 別 費	38,780	16,400	12,300	3,960	6,120
部 門 共 通 費					
福利施設負担額	6,300				
建物減価償却費	1,800				
部 門 費	46,880				
第 1 次 配 賦					
A 補助部門費					
B 補助部門費					
第 2 次 配 賦					
A 補助部門費					
B 補助部門費					
製 造 部 門 費					

問題 18 製造間接費の部門別予定配賦①

(1) 部門別予定配賦率

第 1 製造部門 @ _____ 円 第 2 製造部門 @ _____ 円

(2) 指図書別予定配賦額

No.101 _____ 円 No.102 _____ 円

問題 19 製造間接費の部門別予定配賦②

(1) 製造間接費予算部門別配賦表

製造間接費予算部門別配賦表

(単位：円)

摘 要	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門	
		第 1 製造 部 門	第 2 製造 部 門	材料部門	保全部門
部門費合計	164,000	64,000	47,250	40,000	12,750
材料部門費					
保全部門費					
製造部門費					

(2) 部門別予定配賦率

第 1 製造部門 @ _____ 円 第 2 製造部門 @ _____ 円

(3) 指図書別予定配賦額

No.101 _____ 円 No.102 _____ 円

問題 20 総合原価計算①

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 21 総合原価計算② (先入先出法)

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 22 総合原価計算③ (平均法)

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 23 等級別総合原価計算

	X 1	X 2
(1) 完成品総合原価	円	円
(2) 完成品単位原価	@ 円	@ 円

問題 24 組別総合原価計算

	A 製品	B 製品
(1) 月末仕掛品原価	円	円
(2) 完成品総合原価	円	円
(3) 完成品単位原価	@ 円	@ 円

問題 25 工程別総合原価計算

仕掛品 - 第1工程

(単位：円)

月初有 高：		次工程振替高：	
材 料 費	28,800	材 料 費 ()	
加 工 費	8,560	加 工 費 ()	
小 計	<u>37,360</u>	小 計 ()	
当月製造費用：		月末有 高：	
材 料 費	146,300	材 料 費 ()	
加 工 費	85,280	加 工 費 ()	
小 計	<u>231,580</u>	小 計 ()	
	<u>268,940</u>	()	

仕掛品 - 第2工程

(単位：円)

月初有 高：		当月完成品：	
前工程費	76,000	前工程費 ()	
加工費	18,900	加工費 ()	
小 計	<u>94,900</u>	小 計 ()	
当月製造費用：		月末有 高：	
前工程費 ()		前工程費 ()	
加工費	233,100	加工費 ()	
小 計 ()		小 計 ()	
()		()	

問題 26 仕損・減損の処理①

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 27 仕損・減損の処理②

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 28 工程別総合原価計算+仕損・減損

仕掛品 - 第1工程

(単位：円)

月初有高：		次工程振替高：	
材料費	2,850	材料費 ()	
加工費	1,710	加工費 ()	
小計	4,560	小計 ()	
当月製造費用：		月末有高：	
材料費	12,150	材料費 ()	
加工費	15,840	加工費 ()	
小計	27,990	小計 ()	
	32,550	()	

仕掛品 - 第2工程

(単位：円)

月初有高：		当月完成品：	
前工程費	8,400	前工程費 ()	
加工費	3,255	加工費 ()	
小計	11,655	小計 ()	
当月製造費用：		月末有高：	
前工程費 ()		前工程費 ()	
加工費	39,405	加工費 ()	
小計 ()		小計 ()	
()		()	

問題 29 材料の追加投入①

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 30 材料の追加投入②

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 31 材料の追加投入③

(1) 月末仕掛品原価		円
(2) 完成品総合原価		円
(3) 完成品単位原価	@	円

問題 32 製造原価報告書

	<u>製造原価報告書</u>	(単位：円)
材 料 費		
主要材料費	()	
補助材料費	()	()
労 務 費		
直接工賃金	()	
間接工賃金	()	
給 料	()	()
経 費		
電力料	()	
保険料	()	
租税公課	()	
賃借料	()	
減価償却費	()	()
合 計		()
製造間接費配賦差異	[]	()
当期総製造費用		()
期首仕掛品原価		()
合 計		()
期末仕掛品原価		()
当期製品製造原価		()

* [] には+ (有利差異の場合) または- (不利差異の場合) を記入すること。

問題 33 差異分析

- (1) 直接材料費差異 (総差異) _____ 円 () 差異
- 価 格 差 異 _____ 円 () 差異
- 数 量 差 異 _____ 円 () 差異
- (2) 直接労務費差異 (総差異) _____ 円 () 差異
- 賃 率 差 異 _____ 円 () 差異
- 作 業 時 間 差 異 _____ 円 () 差異
- (3) 製造間接費差異 (総差異) _____ 円 () 差異
- 予 算 差 異 _____ 円 () 差異
- 操 業 度 差 異 _____ 円 () 差異
- 能 率 差 異 _____ 円 () 差異

* () 内には「借方」または「貸方」を記入すること。

問題 34 パーシャル・プランとシングル・プラン

(A) パーシャル・プランの場合

	(単位:円)
仕 掛 品	
直接材料費 ()	製 品 ()
直接労務費 ()	月 末 有 高 ()
製造間接費 ()	原 価 差 異 ()
()	()
_____	_____

	(単位:円)
製 品	
月初有高 ()	売 上 原 価 ()
仕 掛 品 ()	月 末 有 高 ()
()	()
_____	_____

(B) シングル・プランの場合

仕 掛 品		(単位：円)
直接材料費 ()	製 品 ()	
直接労務費 ()	月 末 有 高 ()	
製造間接費 ()		
()	()	
()	()	

製 品		(単位：円)
月 初 有 高 ()	売 上 原 価 ()	
仕 掛 品 ()	月 末 有 高 ()	
()	()	
()	()	

問題 35 直接原価計算①

損 益 計 算 書		(単位：円)
I 売 上 高	()	
II ()	()	
()	()	
III 変 動 販 売 費	()	
()	()	
IV 固 定 費	()	
営 業 利 益	()	
	()	
	()	

問題 36 直接原価計算②

(A) 全部原価計算による損益計算書

損 益 計 算 書		(単位：円)
I 売 上 高	()	
II 売 上 原 価	()	
売 上 総 利 益	()	
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	()	
営 業 利 益	()	
	()	
	()	

(B) 直接原価計算による損益計算書

	損 益 計 算 書	(単位：円)
I 売 上 高	()	()
II 変 動 売 上 原 価	()	()
変動製造マージン	()	()
III 変 動 販 売 費	()	()
貢 献 利 益	()	()
IV 固 定 費		
固定製造原価	()	
固定販売費	()	
一般管理費	()	()
営 業 利 益	()	()

問題 37 直接原価計算③

(A) 全部原価計算による損益計算書

	損 益 計 算 書	(単位：円)
	第 1 期	第 2 期
I 売 上 高	()	()
II 売 上 原 価	()	()
売上総利益	()	()
III 販売費・一般管理費	()	()
営 業 利 益	()	()

(B) 直接原価計算による損益計算書

	損 益 計 算 書	(単位：円)
	第 1 期	第 2 期
I 売 上 高	()	()
II 変 動 売 上 原 価	()	()
変動製造マージン	()	()
III 変 動 販 売 費	()	()
貢 献 利 益	()	()
IV 固 定 費	()	()
営 業 利 益	()	()

問題 38 CVP 分析①

問 1	損益分岐点売上高	円
	販売数量	個

問 2	売上高	円
	販売数量	個

問題 39 CVP 分析②

問 1 売上高 _____ 円 販売数量 _____ 個

問 2 安全余裕率 _____ %

問 3 売上高 _____ 円 販売数量 _____ 個

問 4 売上高 _____ 円 販売数量 _____ 個

問題 40 原価の固定分解

(A) 機械作業時間 1 時間あたりの変動製造間接費 _____ 円/時間

(B) 月間の固定製造間接費 _____ 円

問題 41 本社工場会計

		借方科目	金額	貸方科目	金額
1	本社				
	工場				
2	本社				
	工場				
3	本社				
	工場				
4	本社				
	工場				
5	本社				
	工場				

第4問対策 答案用紙

第4問

1

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

問1

借方科目	金額	貸方科目	金額

問2

材 料		(単位：円)
当月仕入高 ()	当月消費高 ()	
<div style="border-left: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; transform: rotate(45deg);"></div>	棚卸減耗費 ()	
<div style="border-left: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; transform: rotate(45deg);"></div>	月 末 有 高 ()	
<div style="border-left: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; transform: rotate(45deg);"></div>	()	()

		借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(1)				
	(2)				
	(3)				
	(4)				
2	(1)				
	(2)				

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)	①			
	②			

製造間接費 (単位：円)

間接材料費	650,000	予定配賦額 ()
間接労務費	1,760,000	原価差異 ()
間接経費		
減価償却累計額 ()		
前払保険料 ()		
修繕引当金 ()		
材 料 ()		
現金預金 ()		
未払水道光熱費 ()		
()		()

仕掛品 (単位：円)

月初有高	160,000	完 成 品 ()
直接材料費	3,250,000	月 末 有 高 ()
直接労務費	1,280,000	
直接経費 ()		
製造間接費 ()		
()		()

製 品 (単位：円)

月初有高 ()	売上原価 ()
当月完成 ()	月 末 有 高 ()
()	()

売上原価 (単位：円)

当月販売 ()	月 次 損 益 ()
原価差異 ()	
()	()

素 材 (単位：千円)

期首有高	1,395	直接材料費 ()	
購入代価 ()		間接材料費 ()	
引取費用 ()		棚卸減耗費 ()	
		期末有高 ()	
	()		()

賃金・手当 (単位：千円)

当期支給額	15,390	期首未払高 ()	
期末未払高 ()		直接労務費 ()	
賃率差異 ()		直接工間接賃金 ()	
		手待賃金 ()	
	()		()

製造間接費 (単位：千円)

間接材料費 ()		仕掛品 ()	
間接労務費 ()		原価差異 ()	
間接経費 ()			
	()		()

仕掛品 (単位：千円)

月初有高	1,350	当期完成高 ()	
直接材料費 ()		月末有高	1,530
直接労務費 ()			
直接経費 ()			
製造間接費 ()			
	()		()

		<u>製造原価報告書</u>		(単位：円)
I	直接材料費			
	月初棚卸高	(_____)	
	当月仕入高	(_____)	
	合計	(_____)	
	月末棚卸高	(_____)	(_____)
II	直接労務費			(_____)
III	製造間接費			
	間接材料費	(_____)	
	間接労務費	(_____)	
	電力料金	(_____)	
	保険料	(_____)	
	減価償却費	(_____)	
	水道料金	(_____)	
	合計	(_____)	
	製造間接費配賦差異	(_____)	(_____)
	当月製造費用			(_____)
	月初仕掛品原価			(_____)
	合計			(_____)
	月末仕掛品原価			(_____)
	当月製品製造原価			(_____)

		<u>損益計算書</u>		(単位：円)
I	売上高			14,900,000
II	売上原価			
	月初製品有高	(_____)	
	当月製品製造原価	(_____)	
	合計	(_____)	
	月末製品有高	(_____)	
	差引	(_____)	
	原価差異	(_____)	(_____)
	売上総利益			(_____)

(以下略)

問1

前月末の仕掛品有高	円
前月末の製品有高	円

問2

直接材料費	円
直接労務費	円
製造間接費	円

問3

当月末の仕掛品有高	円
当月末の製品有高	円

問4

当月の売上原価	円
---------	---

問1

仕掛品 (単位：円)

前月繰越 ()	製品 ()
直接材料費 ()	次月繰越 ()
直接労務費 ()	
製造間接費 ()	
()	()

問2

製品 (単位：円)

前月繰越 ()	当月販売高 ()
仕掛品 ()	次月繰越 ()
()	()

問3

売上原価 = 円

製造間接費 (第1工程) (単位:円)

諸	口 ()	仕掛品 (第1工程) ()
動力	部門 ()	配賦差異 ()
修繕	部門 ()	
	()	()

製造間接費 (第2工程) (単位:円)

諸	口 ()	仕掛品 (第2工程) ()
動力	部門 ()	配賦差異 ()
修繕	部門 ()	
	()	()

仕掛品 (第1工程) (単位:円)

材	料	180,000	仕掛品 (第2工程) ()
賃	金 ()		
製造間接費 (第1工程)	()		
	()		()

仕掛品 (第2工程) (単位:円)

仕掛品 (第1工程)	()	製	品 ()
賃	金	198,800	月 末 有 高 ()
製造間接費 (第2工程)	()		
	()		()

問1

予算部門別配賦表 (単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		第1製造部	第2製造部	修繕部	材料倉庫部	工場事務部
部門費	134,400,000	65,672,000	48,170,000	7,776,000	5,600,000	7,182,000
修繕部費						
材料倉庫部費						
工場事務部費						
製造部門費						

第1製造部門費予定配賦率	円/時間
第2製造部門費予定配賦率	円/時間

問2

製造間接費 (第1製造部) (単位：円)

実際発生額	6,200,000	予定配賦額 ()
予算差異 ()	操業度差異 ()
))

問3

製造間接費 (第1製造部) (単位：円)

実際発生額	6,200,000	予定配賦額 ()
予算差異 ()	操業度差異 ()
))

	工場の仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

	本社の仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

第 5 問対策 答案用紙

第 5 問

1

問 1

原価配分法が先入先出法のと

き (単位：円)

	材 料 費	加 工 費	合 計
月末仕掛品	()	()	()
完 成 品	()	()	()

原価配分法が平均法のと

き (単位：円)

	材 料 費	加 工 費	合 計
月末仕掛品	()	()	()
完 成 品	()	()	()

問 2

原価配分法が先入先出法のと	きの完成品原価	円
原価配分法が平均法のと	きの完成品原価	円

(1) 総合原価計算表 (単位:円)

	材料 A	材料 B	材料 C	加工費
月初仕掛品	11,200	()	()	()
当月投入	205,000	131,300	()	()
合計	()	()	570,000	279,050
月末仕掛品	()	()	()	()
完成品	()	()	()	()

(2)

売上原価 = 円

仕掛品—第1工程

(単位：円)

月初有高：		次工程振替高：	
原料費	1,580,000	原料費	()
加工費	3,856,000	加工費	()
小計	5,436,000	小計	()
当月製造費用：		月末有高：	
原料費	9,300,000	原料費	()
加工費	11,544,000	加工費	()
小計	20,844,000	小計	()
	26,280,000		()

仕掛品—第2工程

(単位：円)

月初有高：		当月完成品：	
前工程費	1,556,100	前工程費	()
加工費	1,039,800	加工費	()
小計	2,595,900	小計	()
当月製造費用：		月末有高：	
前工程費	()	前工程費	()
加工費	16,036,200	加工費	()
小計	()	小計	()
	()		()

当工場では、2つの工程があり、第1工程の始点で材料を投入し加工して第1工程完了品となる。そして、第2工程の始点で第1工程完了品を投入し、加工して製品となる。

ここで、第1工程完了品原価は、第2工程では、(①)とよばれ、第1工程完了品は、第2工程の始点で投入されることから、(②)とみなして原価配分の計算を行う。このような工程別総合原価計算の計算方法を(③)という。

通常、不可避的に生ずる仕損は、(④)とよばれる。それが生じたために増加した原価である(⑤)は、製品原価性をもつために良品が負担すべきであるが、いつ発生したかによって負担先が異なる。(⑤)は、第1工程では(⑥)のみに負担させるが、第2工程では(⑥)と(⑦)の両者に負担させる。

第1工程の月末仕掛品原価は(⑧)円、完成品総合原価は(⑨)円である。

第2工程の当月製造費用の①は(⑩)円、第2工程の月末仕掛品原価は(⑪)円、完成品総合原価は(⑫)円である。

(1)

	素 材 A	梱 包 材 B	加 工 費	合 計
月 末 仕 掛 品 原 価	円	円	円	円

(2) 1箱あたりの単位原価 = 円/箱

(1)

月末仕掛品原価	<input type="text"/>	円
製品Aの完成品総合原価	<input type="text"/>	円
製品Bの完成品単位原価	<input type="text"/>	円/個

(2)

損益計算書

(単位：円)

I 売上高	()
II 売上原価		
月初製品棚卸高	1,366,000	
当月製品製造原価 (<input type="text"/>)
合計 (<input type="text"/>)
月末製品棚卸高 (<input type="text"/>)
差引 (<input type="text"/>)
原価差異 (<input type="text"/>) (
売上総利益	<input type="text"/>)

組別総合原価計算表

(単位：円)

	X製品		Y製品	
	原料費	加工費	原料費	加工費
月初仕掛品原価	40,600	24,850	73,400	14,320
当月投入費用	461,000	()	733,000	()
合計	501,600	()	806,400	()
月末仕掛品原価	()	()	()	()
完成品総合原価	()	()	()	()

(A) 直接材料費差異	総 差 異 =	円 ()
	価 格 差 異 =	円 ()
	数 量 差 異 =	円 ()
(B) 直接労務費差異	総 差 異 =	円 ()
	賃 率 差 異 =	円 ()
	作 業 時 間 差 異 =	円 ()
(C) 製造間接費差異	総 差 異 =	円 ()
	予 算 差 異 =	円 ()
	操 業 度 差 異 =	円 ()
	能 率 差 異 =	円 ()

問1 固定製造間接費の標準配賦率 = 円/時間

変動製造間接費の標準配賦率 = 円/時間

問2 当月の標準配賦額 = 円

問3 製造間接費総差異 円 (有利・不利)

予 算 差 異 円 (有利・不利)

能 率 差 異 円 (有利・不利)

操 業 度 差 異 円 (有利・不利)

問4 操 業 度 差 異 円 (有利・不利)

(注) () 内の「有利」または「不利」を○で囲むこと

問1

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				

問2

損益計算書 (単位：円)

I 売上高					
II 売上原価					
当月製品製造原価	()		
月末製品棚卸高	(<u> </u>)		
標準売上原価	()		
原価差異	(<u> </u>)	(<u> </u>)
売上総利益				(<u> </u>)

直接原価計算による損益計算書では、売上高から変動費を控除して(①)を計算し、さらに(②)を控除して営業利益を計算する。第1期の①は(③)円、営業利益は(④)円である。一方、全部原価計算によると、売上高から売上原価を控除して(⑤)を求め、さらに(⑥)を控除して営業利益を計算する。第1期の⑤は(⑦)円、営業利益は直接原価計算と同じである。

第2期の営業利益は、直接原価計算によると(⑧)円、全部原価計算によると(⑨)円である。この営業利益の差は、全部原価計算において期末棚卸資産に含まれる(⑩)の分である。

仮に、第2期の製品生産量を6,000個とすると、このときの営業利益は、直接原価計算によると(⑪)円、全部原価計算によると(⑫)円になる。

- 問1 資料の(1)には()、
 (2)には()という言葉が入る。
- 問2 関西工業株式会社の貢献利益率は()%、売上高営業利益率は()%である。なお、1%未満は四捨五入すること。
 【例】11.11...% → 11%
- 問3 関西工業株式会社の損益分岐点における月間貢献利益は()円である。
- 問4 関西工業株式会社の損益分岐点の月間売上高は()円である。
- 問5 関西工業株式会社が来月以降、月間12,000,000円の営業利益を獲得しようと計画するならば、月間売上高は()円でなければならない。
- 問6 固定製造原価が5%増加し、固定販売および一般管理費が3%減少したものとす。関西工業株式会社が来月以降、月間12,000,000円の営業利益を獲得しようとするならば、月間売上高は()円でなければならない。

- 問1 %
- 問2 %
- 問3 万円
- 問4 万円
- 問5 %
- 問6 万円
- 問7 万円
- 問8 %